

博士学位論文審査要旨

2024年1月11日

論文題目： 中国都市部における社区居宅養老サービスをめぐる
ネットワークづくりに関する基礎的研究
—ケアマネジメント体制の構築に焦点をあてて—

学位申請者： 孫 心悦

審査委員：

主査： 社会学研究科 教授 空閑 浩人

副査： 社会学研究科 教授 小山 隆

副査： 千葉商科大学商経学部 教授 朱 珉

要 旨：

本論文は、中国都市部における高齢者への居宅介護サービスの利便性やケアの連続性、ニーズとの整合性が保障される社区居宅養老サービスの整備について論じたものである。その内容は、サービス利用者本位の立場から、ケアマネジメント体制の構築を視野に入れ、地域における社区居宅養老サービス間のネットワークづくりについて検討したものとなっている。

中国では、改革開放以後、経済状況や社会状況の変化により高齢者ケアの社会化が求められ、現在では社区居宅養老サービスが徐々に都市部における高齢者ケアの主体となっている。また、人口の高齢化に対応するために、社区居宅養老サービスの量的確保を速やかに進めていくことが求められ、市場化原理を活用したサービスの社会化が推進されている。

しかしながら、社区居宅養老サービスが整備される過程において、サービスの社会化や量的拡大に伴い、フラグメンテーション（断片化）という課題が生じている。サービス間での連携や調整がないままに、断片化したケアがもたらされ、高齢者にとって利用しやすい仕組みになっているとは言えない状況にある。この課題に対して、高齢者や家族が総合的で包括的なサービスをいつでも利用でき、かつ利用しやすい社区居宅養老サービス提供の仕組みをいかに構築して、地域で機能させるかが、本論文の問題意識である。

その問いに対して、本論文では、サービスの供給主体である各機関・団体の連携、及び各資源の統合と調整によるネットワークづくりが、社区居宅養老サービスが社会的ケアとして定着するかどうかの鍵となる課題であると主張している。そして、ネットワークづくりの方向性や方法については、高齢者のニーズに応じて適切にサービスを調整するケアマネジメント体制の構築に焦点をあてて、日本の介護保険制度におけるサービス利用やネットワークづくりに関する取り組みを踏まえつつ、議論を展開している。

論文の構成として、まず第1部では、中国都市部における社区居宅養老サービスの特徴と課題の整理を行っている。歴史的視点から、養老サービスをめぐるフラグメンテーションという課題に焦点をあて、ネットワークづくりの必要性について論じている。次に第2部では、先行研究の動向とサービス利用に関する実態調査を通して、今後のネットワークづくりの方向性についての検討がなされている。現在の介護サービスの利用をめぐる状況を踏まえた上での、サービス間のネットワーク形成に向けた課題を明らかにしている。そして、第3部では、中国都市部の実情に適した社区居宅養老サービスをめぐるネットワークづくりのあるべき姿は何かについて、筆者の

主張が述べられている。日本の介護保険制度におけるケアマネジメントの展開とネットワーク形成の経緯を踏まえて、中国におけるサービス利用のプロセスや事例分析に基づき、ケアマネジメントを可能にするネットワークづくり推進のための方策についての提言がなされている。

それは、サービス利用のフラグメンテーション（断片化）の課題を克服するために、既存のトップダウン式のサービス供給体制から一部の機関や体制を抽出し、チームを結成することでネットワーク組織を形成すること、そして、チームの調整機能の発揮により、ケアマネジメントの展開とネットワーク形成を推進するというものである。

研究論文としては、論理の展開や調査の分析に関してやや物足りなさはあるものの、全体として、中国における今後の社区居宅养老服务をめぐるケアマネジメントの展開とネットワーク構築に資する内容であると言える。

よって、本論文は、博士（社会福祉学）（同志社大学）の学位論文として十分な価値を有するものと認められる。

総合試験結果の要旨

2024年1月11日

論文題目： 中国都市部における社区居宅養老サービスをめぐる
ネットワークづくりに関する基礎的研究
—ケアマネジメント体制の構築に焦点をあてて—

学位申請者： 孫 心悦

審査委員：

主査： 社会学研究科 教授 空閑 浩人

副査： 社会学研究科 教授 小山 隆

副査： 千葉商科大学商経学部 教授 朱 珉

要 旨：

2023年12月21日(木)11時00分から12時00分の1時間にわたり、語学試験(英語)を実施した。また、13時30分から15時00分にかけて、申請者による公開学術講演会を新創館会議室で行った。さらに、15時10分から16時10分の1時間、上記審査委員による口頭試問を行った。

語学試験(英語)においては、博士学位取得者に相応しい語学力を有していることが確認された。公開学術講演会では、申請者は提出された博士学位申請論文について、その内容を的確に説明し、本論文の意義や独自性について主張することができた。また、講演会出席者からの質問に対しても真摯にかつ適切に応答することができた。口頭試問では、審査委員からの学位申請論文の内容および、専門分野(社会福祉学)に関する質疑応答を通して、博士学位取得者に相応しい能力と知識を有していることが確認された。

以上のことから、総合試験の結果は合格であると認める。

博士學位論文要旨

Abstract of Doctoral Dissertation

論文題目： 中国都市部における社区居宅養老サービスをめぐる
Title of Doctoral Dissertation ネットワークづくりに関する基礎的研究
—ケアマネジメント体制の構築に焦点をあてて—

氏名： 孫 心悦
Name

要旨：
Abstract

本論文は、中国都市部において、利用者本位の立場から、高齢者の利便性やケアの連続性、ニーズとの整合性等を確保できる社区居宅養老サービスを整備するために、ケアマネジメント体制の構築を視野に入れ、社区居宅養老サービスをめぐるネットワークづくりの方法について論じた。

中国では、改革開放以後、経済状況や社会状況の変化により高齢者ケアの社会化が求められ、現在では社区居宅養老サービスが徐々に都市部における高齢者ケアの主体となっている。また、高齢化率の急増、及び膨大な高齢者数に対応するために、社区居宅養老サービスの量的確保を速やかに進めていくことが求められ、市場化原理を活用したサービスの社会化が推進されている。しかし、社区居宅養老サービスが整備される過程において、サービスの社会化や量的拡大に伴い、フラグメンテーション（断片化）という課題が生じている。フラグメンテーションにより、高齢者に断片化したケアがもたらされ、既存のサービスは高齢者にとって利用しやすいサービスとなっていない。このフラグメンテーションが高齢者にもたらす断片化したケアに焦点をあて、本論文においては、高齢者と家族の意向をもとに、包括的なサービスをいつでも利用でき、かつ利用しやすい社区居宅養老サービスを、どのように推進していくかを検討することを問題意識とした。

このような問題意識のもと、本論文では、高齢者のサービス利用に至るプロセスのなかで、各機関・団体の連携、及び各資源の統合と調整によるネットワークづくりが、社区居宅養老サービスが社会的ケアとして定着するかどうかの鍵となる課題であると主張する。そして、社区居宅養老サービスをめぐるネットワークづくりの方向性や方法については、高齢者のニーズに応じて適切にサービスを調整するケアマネジメント体制の構築に焦点をあて、日本の在宅サービス事業をめぐるネットワークづくりに関する取り組みを踏まえつつ、議論を展開した。

以下、本論文で設定した3つのリサーチクエスチョンに基づき、本論文で明らかにしたことを示す。

RQ1：中国都市部における社区居宅養老サービスの特徴と課題は何か（第一部）。

RQ2：現在のネットワークづくりの動向と課題は何か（第二部）。

RQ3：中国都市部の実情に適した社区居宅養老サービスをめぐるネットワークづくりのあるべき姿は何か（第三部）。

第一部（第1～3章）では、歴史的視点から社区居宅養老サービスの背景と特徴を明らかにしたうえで、フラグメンテーションという課題に焦点をあて、ネットワークづくりの必要性について論じた。

第1章では、中国における「政府主導」の理念と民間の実践活動の思想背景を探り、文献研究と高齢者ケアに関する政策の整理を通して、国の政策、サービス誕生の時代背景、及び思想背景から、社区居宅養老サービスの歴史の変容を整理した。

第2章では、上海市における社区居宅養老サービスの展開過程を例に、177本の新聞記事とインタビュー調査を通して、社区居宅養老サービス事業の展開における特徴について論述した。具

体的に、政府主導による社区居宅養老サービス実践の特徴と課題を、行政機関と民間事業者の連動から明らかにした。その結果、上海市における社区居宅養老サービスの展開過程の特徴は、行政機関によるトップダウン式の社会資源の開発が先行し、その後民間事業者が、政府主導の理念のもと実践をしていくことにあった。しかし、課題として、トップダウン式の社区居宅養老サービス実践の開発方式は、民間事業者の主体性の低下をもたらしていたことが確認された。その課題を解決するため、ソーシャルワーカーの調整的機能を強化していくことを主張した。

第3章では、ネットワークの背景にあるフラグメンテーションという課題を手がかりに、フラグメンテーションに関する36本の先行文献をレビューし、その内容や要因を明らかにすることを通して、なぜネットワークづくりが必要かを示した。また、フラグメンテーションがもたらす社会資源の濫費、断片化したケア等の問題を解決するため、今後社区居宅養老サービスをめぐるネットワークづくりを推進する際に、各供給主体、社会資源をコーディネートする機関や組織を設置し、行政との連携や、ケアマネジメントの役割を担う存在の必要性を示した。

第二部（第4～6章）では、第一部で明らかにしたネットワークづくりの必要性を踏まえ、先行研究の動向とネットワークに向けた取り組みに関する実態調査を通して、今後のネットワークづくりの方向性について検討した。その結果、高齢者のニーズに応じて適切にサービスを調整するケアマネジメントを可能にするネットワークづくりの必要性を示した。

第4章では、ネットワークづくりの理論的根拠を明確にし、今後の社区居宅養老サービスをめぐる体制整備の方向性に示唆を与えることを目的に、フラグメンテーションの解決策として提示された「整合照料」に関する36本の先行研究に対する文献レビューを行った。整合照料に関する先行研究では主に、政府のガバナンス機能に焦点が置かれ、政府主導のもと協力体制を整備していくことが主張されていた。また先行研究における課題について、サービスを利用者につなぐ媒介としてのICT等、新しい情報技術の限界や、メゾ・ミクロレベルの視点の欠如によりもたらされる、整合照料の理念と体制・システム設計の間のずれの問題について検討した。

第5章では、実践の側面からネットワークづくりの実態と課題に関するインタビュー調査を行った。具体的に、上海市を例に、サービスの供給システムに焦点をあて、既存のネットワークづくり実践における課題を明らかにした。調査から抽出した課題を踏まえ、①高齢者のセルフケアを支援すること、②支援現場の状況を十分に反映させる場を構築すること、③独立したネットワーク間の狭間を埋める重層的なネットワークづくりの仕組みを構築すること、という3点を提示した。

第6章では、第4章と第5章を踏まえ、社区居宅養老サービスをめぐるネットワークづくりにケアマネジメントが必要な理由を論じたうえで、中国におけるケアマネジメントの現状と動向を検討し、その課題を明らかにした。それを踏まえ、各国のケアマネジメントにおける展開とモデルを横断的に整理し、中国におけるケアマネジメントを導入する際の展開枠組みに対する示唆を提示した。

第三部（第7～9章）では、中国における社区居宅養老サービスをめぐるネットワークの構築に資する基礎的知見を得ることを目的に、日本でケアマネジメントとネットワークづくりが展開されてきた経緯から得た知見を踏まえ、インタビュー調査から得た中国における高齢者のサービス利用のプロセス、及び断片化ケアの事例に対する分析に基づき、ケアマネジメントを可能にするネットワークづくり推進のための方策について提言した。

第7章では、日本でケアマネジメントが展開されてきた経緯を縦断的に考察した。具体的に、90年代に在宅介護支援センターが先導したケアマネジメントの展開から、日本におけるケアマネジメントとネットワークづくりの変動と課題等を考察した。その結果、日本の経験から、①中国でケアマネジメントを実施する機関、②総合支援としてのケアマネジメントの必要性、③コーディネーションの手段、という3点の示唆が得られた。

第8章では、高齢者のサービス利用のプロセスに関するインタビュー調査、及び断片化したケ

アの事例に対する分析を通して、既存の供給体制における課題を検討し、それらの課題に対応するケアマネジメント体制を構築する要件を提示した。中国上海市においてケアマネジメント体制を構築するための要件について、アセスメント機能を明確にしたうえで、コーディネートの場を中核としたサービスデリバリーシステムの枠組みを提示した。

第9章では、第1章～第8章を踏まえ、中国におけるケアマネジメントを導入する条件を検討し、その条件を満たすケアマネジメント体制を可能にするネットワークづくりの方法を提案した。具体的に、中国都市部の実情に適したケアマネジメント体制を構築するためには、政府主導のトップダウン式のサービス供給体制に準ずると同時に、既存の独立したネットワークの狭間に陥る可能性のある高齢者（断片化したケアを受けている高齢者）に対応できるという2つの条件を満たす必要性を示した。そのうえで、本論文では、第8章で提示したサービスデリバリーシステムの枠組みを踏まえ、トップダウン式の供給体制とネットワークが両立する二重構造を提示し、以下のケアマネジメントを可能にするネットワークづくりの方法について提案した。その方法とは、既存のトップダウン式のサービス供給体制から一部の機関や体制を抽出し、チームを結成することでネットワーク組織を形成し、断片化したケアを受けている高齢者を対象に、そのチームにより集中的ケアマネジメントを実施することである。さらに、各チームメンバーの調整機能を活用し、それぞれのチームメンバーを中心に「二次的ネットワーク」の形成を目指す。多数の二次的ネットワークにより形成される仕組みは、社区居宅養老サービスをめぐるネットワーク構成の基盤となる。

終章では、本論文の結果をまとめ、実現可能性、現行のサービス供給体制を徹底的に改革する方法、及び上海以外の都市での適応可能性という3点から本論文の限界について論じ、将来のケアマネジメント体制と社区ネットワークの展望について述べた。本論文で提示したネットワークづくりの方法は必ずしも中国に適する、あるいは実現できるとは限らないが、中国における社区居宅養老サービスをめぐるネットワークの構築に資する基礎的知見を得ることが本論文の位置づけであると考えられる。